

## 令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	10	事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名：公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 施設名：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>滋賀県が策定した「滋賀県文化振興基本計画」を踏まえた滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールのミッション・ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業は適正に組み立てられている。</p> <p>また、さまざまな手法で音楽に関わる人材を養成する取組、オペラの鑑賞機会のすそ野拡大を目指し、あらゆる人々が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を目指すなど、地域の特性から導き出された対象者や地域のニーズがもとになっており、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で目標の達成に至らない事業もあったが、事業は一定の水準で実施されており、下記のとおりそれぞれの目標に向けた成果が表れている。</p> <p>目標1「舞台芸術の創造発信」の「自主制作オペラの事業数」という指標においては、4事業で目標値を達成し国際水準の実演芸術の創造発信が認められた。</p> <p>目標2「舞台芸術にかかわる人材育成」では、「びわ湖ホール声楽アンサンブル」卒団者数という指標において令和3年度時点でほぼ達成している。</p> <p>目標3「舞台芸術に親しむ観客の創造」においては、県教育委員会との連携による青少年対象の事業で、コロナ禍の影響を大きく受け、事業数及び参加者数が激減したものの、令和3年度にはほぼ回復している。</p> <p>さらに、各事業におけるオンライン配信への積極的な取組も評価できる。</p> <p>以上のことから、おおむね目標を達成し、一定程度のアウトカムの発現が認められる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。</p> <p>（創造性）</p> <p>「舞台芸術の創造・発信」として、ドイツを中心に活躍する指揮者・沼尻竜典芸術監督によるプロデュースオペラ・シリーズにおいては、所属団体にとられない歌手のキャスティングや劇場の持つ機能を最大限活用し、国際水準の舞台芸術を創造発信しており、獨創性、先導性が認められる。</p> <p>「舞台芸術にかかわる人材育成」では「沼尻竜典オペラ指揮者セミナー」で若手指揮者を、「イタリア声楽曲研修」で若手声楽家の育成を図ると同時に、受講者のみならず一般にも公開され、広く学ぶ機会を提供した。これらは世界的にも例を見ない音楽家養成セミ</p>		

ナーであり、国内外からの注目度も高く、海外からも受講者、聴講者が集まったことから、独創性、新規性が認められる。

「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、国内で唯一アカデミー要素を持つ専属団体「びわ湖ホール声楽アンサンブル」が、人材養成機関として機能している。65名の登録歌手（卒団者）が国内外で声楽家として活躍していることは、独創性を発揮するための資源として認められる。また「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を活用し、県内各ホールと提携したオペラ公演や、地理的に当該劇場へ来ることが難しい子供たちにクラシック音楽を提供する「学校巡回公演」を実施し、文化活動への参加、鑑賞機会の充実を促進している。また、小学生をホールへ招待してオーケストラや声楽アンサンブル公演を聴かせる「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」は地元新聞などでも取り上げられ好意的な感想を得ている。これらの事業には、独創性が認められる。

このホールの根幹をなす「プロデュースオペラ」シリーズは芸術監督の沼尻竜典を中心に、世界的に活躍する演出家を招へいし、所属団体にとらわれず、演目に適した歌手を国内外から起用するなど、新演出によるオペラを制作した。また、ワーグナー「ニーベルングの指環」4部作や「パルジファル」のように、海外制作の作品と世界レベルで比較できるものを取り上げるなど、国内外を意識した企画を行った。YouTubeによる無料配信は世界中で41万人が視聴するなどライブ・アーカイブ配信の魁となるとともに国内外から高い評価を得るところとなった。

また海外からの招へい事業やオペラの自主制作事業を通じて海外スタッフとの協働が図られ、企画制作者や舞台技術者の舞台制作及び技術向上につながっており、今後も高い水準の舞台公演の実現が期待できる。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっていると認められる。

#### （持続性）

財政面では、県との密接な関係を基礎とした安定的な財政支援に加え、地元企業や個人からの支援も順調に伸ばしており、財政基盤の確保、強化がなされている。

組織面では、県の出向職員から財団プロパー職員への転換を進め、専門性を高めるための組織体制強化が図られている。

また創造的活動の核でもある「びわ湖ホール声楽アンサンブル」の育成とともに舞台スタッフについても地域連携による他のホールとの技術交流や舞台技術研修など「教える」ことを通じた育成にも努めている。

以上のことから、事業計画を通じて組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

#### （総 評）

当該劇場の事業計画「三方よし創造実践事業」は妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後も、当該施設が持つオペラ制作力と人材育成力といった強み・特色を生かし、戦略的な事業展開に期待したい。